

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会法人誠和会		
事業所名	グループホームすみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 16 日	評価結果確定日	平成 28 年 10 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【①利用者本位のケアを心掛けている。】 利用者の能力・趣味・趣向・生活の継続性等を考慮した上で、利用者の思いを大切にし、その思いに添える支援を行っている。能力を発揮できる、役割作りや利用者間の関係づくり、季節感を持って頂く工夫を心掛けています。

【②家族との連携】 利用者の変化等、細目に報告、相談を行い、ご家族と協力しながら一緒に支えています。家族参加行事を行い、利用者・家族・職員間の交流を図り、信頼関係を構築しています。

【③職員の質の向上】 事業所内・法人内では年間を通じて計画的に職員研修を実施し、法人外では勉強会に行く機会を創出し、職員の知識・技術の向上に繋げています。また、他事業所との連携・情報交換や交流も推進し、職員の質の向上を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 9 月 2 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は都市部の住宅街に位置し、敷地内には同法人の特別養護老人ホームが隣接している。敷地の中庭に、木立に囲まれた空間があり、利用者が散歩したり、近所の子供たちが遊びにきたりする場所となっている。地域の拠点になることを目標として、理念の実践を心がけており、利用者の希望を聞く「願い叶え」という取り組みでは、「共に歩み共に喜び」といった理念のもと、利用者の希望を、職員皆で実現して喜びを共有している。

事業所は、研修体制や委員会活動が充実しており、職員は働きやすい環境のもとで、利用者の援助を通じて成長することができている。管理者や職員は、利用者の思いを受け入れ、常に利用者中心の支援を行うように心がけている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活が継続できるよう自立のお手伝いをさせて頂きます」を共有し、利用者対応の判断軸となるよう、会議などで理解を深め、実践に繋げています。	グループホームの理念について、毎朝、職員による唱和が行われ、理念の理解と意識付けがされている。 グループホーム会議等の事例検討の際に理念を基本とした支援方法が討論されている。新しい職員も人格の尊重、利用者の主体性を持った地域生活支援などの理解を進めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域掃除、地域の行事に積極的に参加しています。散歩や食材の買い出しでの外出の際、地域の方が声をかけて下さり、暖かく地域で見守っていただいていると感じます。	グループホームは町内会に加入している。また、地域清掃やリサイクル活動、夏祭りや文化祭など多くの行事を通じて、地域交流が行われている。利用者と地域の方で近くに出かけたりすることもある。法人の施設を使って、地域の方に「認知症サポーター」養成研修を提供している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方の相談に応じたり、認知症サポーター養成講座、腰痛予防教室等要請に応じ勉強会を開いています。施設として、地域の方に貢献できることはないか、発信し検討中です。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括、行政などの参加を頂き、サービスの提供状況を報告しています。会議の中で、地域の方、地域包括から、地域の近況・意見や助言を頂きサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は2か月に1度開催されている。利用者、家族、民生委員、地域住民、行政、地域包括の職員が会議に参加されている。避難訓練の際に地域の方の助言を受けたり、行政から新しい情報を得てサービスの向上が図られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関へ出向き、困難事例の相談をしたり、介護保険制度についての疑問点をうかがったり、運営推進会議に参加して頂き、助言を得たりとわからない事があったら随時連絡しています。	主にケアマネージャーが行政や地域包括に訪問して、法人情報誌を渡したり、困難事例の相談や連絡、サービス状況の報告を行うなど、日常的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置されており、委員を中心に取り組んでいます。職員も、身体拘束に関して正しい知識が得られるよう施設内研修・外部研修へ参加しケアの実践に取り組んでいます。	「身体拘束」について、法人に身体拘束委員会を設けて、防止に向けた関連マニュアルを作成している。日中は玄関施錠はない。身体拘束の弊害、防止について、ホーム内での職員研修や、ホーム外での研修会、職員会議などで学んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修参加し、知識の向上に努めている。法人で、接遇委員会が設置され毎月の目標による自己評価と意識づけにより、職場人的環境の整備と虐待防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、法人内での研修参加して、制度について学び、理解を深めています。又、ご家族からの相談に応じて、説明が出来るパンフレットなどの資料の準備をしています。	権利擁護について、成年後見制度や日常生活自立支援事業など、職員が外部で研修を受け、職員間で伝達研修がされている。利用者や家族に対して、パンフレットなどで制度の説明がされている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが非常に大事なので、申し込み→面談→契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら、他職種による説明を行なっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると同時に、玄関にご意見箱を設置している。家族の面会も多く、その際意見が気軽に職員に言えるようご家族とのコミュニケーションを心掛けています。第三者委員会にて、報告助言を頂いています。	利用者や家族に対して運営や接遇に対して、苦情委員会があることの説明や意見箱の設置がされている。法人に「接遇委員会」があり、サービスの質の改善に努めている。利用者に思いや願い事を実現する企画「願い叶え」が行なわれている。利用者の要望を取り入れた清掃の仕方などで利用者意見が反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、日々の申し送り、などで意見や提案を聞き、運営に反映させています。また、面談の機会を設け、意見や提案について直接話すことができます。	グループホーム会議など職員参加によるホーム運営がされている。引継ぎに時間をかけて、職員提案や意見を聞くように心がけている。管理者と職員が直接、話し合える時間がとられていて、提案が運営に生かされている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続者には永年勤続功労が実施されている。系列法人内に保育所を設置するなどして、働きやすい職場環境を整えている。又、今年度より、法人キャリアパス導入により各自向上心を持って働ける環境作りが整備されつつあります。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には、経験、年齢など様々な職員が従事しています。得意分野で、職員の能力を発揮してもらっており、勤務形態は、各人の状況に合わせて対応しています。	職員採用では、人権を尊重し、性別、年齢による差別を行うことなく、熱意や能力による採用がされている。勤務形態について、職員が意欲を持てる指導体制があり、技術向上について、キャリアパス等の支援体制がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に『高齢者に対する尊厳』や『プライバシーの保護』、『高齢者虐待防止』などについて教育を実施している。法人で、接遇委員を設け、毎月目標に沿って、職員全員で啓発活動に取り組んでいます。	「高齢者に対する尊厳と人権」「プライバシー保護」「高齢者虐待」などについて、法人で教育委員会を設け計画的に研修が行われている。又、職員は組織内外の研修に参加している。法人内の接遇委員会でも、毎月（改善）目標を立て、サービス向上に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人キャリアパス導入により、レベルに応じた研修参加や自己目標計画をたて、実施し、今後の課題を確認しながらレベルアップに繋げる仕組みがある。施設長や管理者は、ケアの実際と力量等の職員評価後面談し、評価結果や優れている所等を伝え、実施へ繋げられるよう導いています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と交流を図ると共に、入居空き状況や入居希望者の紹介等行っている。運営推進会議には、近隣の小規模多機能施設職員が参加して頂き情報交換し、サービスの質の向上に努めています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人・家族の思いが汲み取れるよう特に時間をかけて、話をしています。話を伺いながら、「何を望まれているのか」「何が、困っているのか」を模索し。施設での生活ニーズと一緒に考える。又、ご本人とよりなじみの関係を作れるよう担当制にしています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なのか」を検討している。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接しています。またその方の能力を発揮して役割を持って頂き、利用者同士助け合い、協力し合いながら、職員も助けて頂きながら共に支え合って関係を築き一緒に生活しています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況を家族にその都度相談し、ご家族の思いを尊重しています。又、利用者の発する想いをご家族へ仲介し対応していたり、担当者会議に参加して頂きプラン作成に役立てています。受診、外出援助、施設内イベントへ参加して頂き、本人と家族との絆を大切に支える関係を築いています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には、楽しいひと時を過ごして頂ける様、お茶や場所を配慮しています。美容室、お寺、サークル等本人の行きたい思いをご家族にお伝えして可能であればご家族に対応して頂いています。贈り物が届いたら、ご本人に電話やお手紙を書いていた頂くよう促したり、ご家族に報告し、関係が続くよう支援しています。	職員は利用者の馴染みの場所や人について、折に触れて、聞き取るよう努めている。友人との交流や面会、手紙のやり取りなど関係性が継続できる支援がされている。「願い叶え」プログラムでは、古い友人や行きたい場所（演劇鑑賞等）などを聞き取り、実現できる手助けがされている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に観察し、職員間で連携を取りながら、家事の分担、レクリエーション、体操、席順などの配慮を行っています。孤立しやすい入居者には、職員が仲介し、ご本人の得意分野を生かしたレクリエーション等で、他との関係作りを心がけています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり、契約終了になった入居者様にも出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問しています。併設施設へ入所された方には、面会に行ったり、行事等でお会いする際声をかけ、関係継続を行っています。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に十分アセスメントを行い、日常のかかわりの中でも会話を多く交わし、一人ひとりの思いや希望、意向に沿えるよう努めています。自分で訴えられない方に対しては、ご家族からの情報や表情や状態を観察し、どのようなことを望んでいるのか、どうしたいのかを見極め、対応しています。	職員は日々のかかわりで、利用者の暮らしに対する思いや希望について、把握しようと努めている。自分の思いを言葉にできない利用者についても、家族や関係者からの情報で思いを把握できるよう心掛けている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、職歴や趣味・趣向、サービスを利用するにいたった経緯や今まで利用したサービス等・・・について幅広く話を伺っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、生活リズム、過ごし方、心身状態の把握に努めています。その方の出来る事、少しの支援で出来る事、出来なくなっている事等の変化を観察し、今の状況を読み取り、対応をしています。日々の記録、会議や申し送りを通して情報を共有し統一したケアを心がけています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員などで随時情報交換を行うと共に、月一度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行っている。ケアプランは3か月から6か月で更新時に担当者会議を行い、定期的に見直しをしている。月に一回のグループホーム会議や申し送りなどで意見交換を行い、ケアプランに反映させている。	介護計画は6か月に1度見直して、作成されている。ケアマネが中心となり、面接、アセスメントを基に医師からの情報や担当者会議を通じて、個別具体的な計画を作成している。作成、または見直された計画は、本人や家族から同意を得、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別でケアプランに関する記録や生活記録があります。又、月2回経過記録を書き、計画書の見直しの際にも活用しています。入所時や行動の変化、対応の検討が必要なときは、なんでもノートを活用し、情報を共有しながら、より良いケアの実践に繋げ必要に応じて介護計画に取り入れ、ケアの統一を図っています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に伴い、検討し個別に合わせ、可能な限り柔軟な対応を心がけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員らと運営推進会議や第三者委員などを通じて意見交換を行ない、地域との関係強化を進めています。町の商店への買い物、クリーニング店への同行、地域行事への参加し交流できる機会を確保している。又、利用者が近隣小学校にベルマーク持参したり、公民館にペットボトルの蓋を持参しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が協力病院であることから、入居時に事業所の協力医へ変更される場合もあり、受診や定期検診を実施しています。物忘れ外来、かかりつけ医等希望があれば、継続して受けられように、施設での生活の様子やバイタル測定等情報提供を主治医へ行っています。	利用者は利用開始後も、今までのかかりつけ医に継続的に受診することができる。受診の際の通院は家族により行なわれるが、家族が遠方の場合、職員が同行することもある。受診時は、担当者が経過報告書を準備し、円滑な医療連携を図るようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を取っており、夜間もオンコールにて報告・指示を受けられるようにしています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行っています。又、環境の変化による利用者の困乱の際は、馴染の職員が面会に行き、安心して治療が出来る様対応しています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について、事業所で出来る事を説明して、緊急時対応や重度化についての同意書を頂いております。	重度化に対する事業所の方針があり、明文化されている。重度化に対して、事業所ができることは、利用開始時に家族に説明され、必要に応じ、話し合いをおこなっている。看護師によるオンコール体制を取っており、対応に関しては、その他の職員にも情報共有がなされている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施し、外部AED研修にも参加している。又、定期的に緊急時対応マニュアルの確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施、消防署の職員にも参加して頂き助言を頂きました。訓練には、地域の方の参加があり、少しずつですが、地域の協力が得られています。	災害対策マニュアルを作成しており、年2回避難訓練をしている。消防署の協力を得て消火器の使い方や担架による搬送方法などを学んでいる。運営推進会議を通じて地域住民の方に訓練への参加を呼び掛け、実際に訓練に参加してもらい、意見を出してもらっている。非常時の備蓄品を事業所内に保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者に対して馴れ合いにならないように、気づいたら職員間で注意し合っています。又、グループホーム会議で言葉遣いに関して確認を行い個人情報の取り扱いやプライバシー保護について研修や法人の職員会議でコンプライアンスについて学び合っています。	部屋に入る際はノックをするなど、プライバシーを守るように配慮して対応している。職員は利用者一人ひとりの尊厳を重視するための研修を受けている。新しい職員は法人として新人教育を行ない、事業所指導者からの助言も受けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを話しやすい雰囲気を作るよう努めています。飲み物の選択、入浴、レク活動、その日の想いや希望をその都度うかがうようにしている。上手く言葉が出ない方へ複数個の選択肢を用意し発語しやすいような声掛けや判断基準をご本人だったら、どうしたいか？を心がけています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、出来ることは、時間がかかっても見守りする。又、居室で過ごしたい方、本を読みたい方、お話をしたい方、動きを把握して自分のペースで生活していただいています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しているが、個人で行きつけのある方は家族と行かれている。季節に応じた洋服を職員と一緒に選んだり、お化粧道具が不足したら、ご家族に連絡しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士にメニューを用意してもらい、主に厨房で作り、汁物やおやつ作りを利用者と行っています。行事食や寿司バイキング等皆様楽しみにされています。食べたい物、作りたい物のリクエストを伺い、食事作りも時々行っています。一人一人の出来る力を生かしながら、調理、準備、片づけを一緒に行っています。	食事の準備や片づけは職員が利用者と共にやっている。職員は食事は別だが、おやつと一緒に食べる等を通じて、食事を楽しむ工夫をしている。利用者アンケートにより、パンを食べたい、めざしを食べたいといった希望に対応している。利用者がジャムや味噌を手作りすることがあり、季節や添った食事や行事に合わせた食事を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量をチェックし、摂取量の管理を行っている。摂取量の少ない方は、好みの飲み物や食べ物の提供、こまめな声掛けなどを行っている。随時、食事形態やトロミ等の検討を行っています。月1回の体重測定にて、体重管理を行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて、毎食後声掛けや口腔ケア介助をし、義歯は毎日ボリドントにつけています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や本人のサインを観察して誘導しています。又、入居時おむつやリハパン使用であっても、その方の力や声掛けにより、トイレでの排泄に向けた取り組みを心がけています。	職員は利用者の排泄について、さりげなくトイレに誘導したりといった支援を行っている。尿意のない利用者に時間を見計らい誘導している。排泄は、情報通信システムを活用して職員が把握している。利用開始時は、夜間オムツを使用していたが、トイレで排泄ができるようになった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて、一人一人の排泄状況を把握し、オリゴ糖や起床時の冷たい牛乳の提供や散歩を促し、自然に排便できるよう支援しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人一人の生活習慣や好みの時間を把握し入浴の時間を考慮し、入浴の提供を心掛けている。希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫やタイミングを考慮している、時々、同敷地内の施設温泉を利用し気分転換して頂いています。	入浴は毎日できるようにしており、希望によりいつでも入浴ができる。入浴を嫌う利用者には、法人の温泉に誘導する等、気持ちよく入浴ができるよう働きかけを行っている。季節により、きんかん、しょうぶ等の入浴剤を使用し入浴が楽しくなる工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を考慮し、適度な午睡や運動・就寝の支援を行ない生活リズムができるようにしている。又、不眠傾向のある方は、ヒーリング音楽や温かい飲み物の提供、一緒に過ごすなど安心して頂ける工夫を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れていつでも確認できるようにしている。予測される副作用については職員間で共有し、異常の際には看護報告している。薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の準備、片づけ等その方の出来る事を探し、役割を持って頂いています。好みの音楽を聴いて頂いたり、一緒に歌ったり最近では、刺し子やパン作りは、大変喜ばれます。読書等今までの嗜好を継続して頂き喫煙習慣のある方には、希望に応じ職員が付き添い対応しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等希望に沿って戸外に出かけています。気候の良い月は、遠方へ外出計画を立てて出かけています。又、利用者一人ひとりの願い叶えるを年間方針実施計画に上げ、ご本人の願いを聞き取り、ご家族と協力して、外出援助を行っています。	近隣の公園へ行き、家族と共に花見を楽しんだり、また山笠の鑑賞に出かけたりしている。事業所敷地内に緑に囲まれた空間があり、利用者は毎日のように散歩することができる。週に一度は食材の買い物をするため、近隣スーパーへでかける。また、利用者個別には、「願い叶え」という取り組みにより、外出の希望がある利用者が行きたいところに出かける支援をすることがある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。自己管理が出来ない方も、安心に繋がれば、お財布を持たれて紛失しない様見守っています。お買い物も支払いが、自分たちで出来るよう支援しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、かけていただき、家族や友人とコミュニケーションを図っている。贈り物が届いたらご本人にお電話して頂いたり、お礼の葉書を出すなど支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた明るい施設であり、施設内は白い壁、木彫のドアや家具は落ち着いた色合いとなっています。リビングの椅子やソファ等は、利用者の状況により、レイアウトを変え居心地良く過ごして頂ける様工夫しています。音、光、色、温度など配慮し、利用者の作品の展示や利用者の活かされた生け花を飾っています。	居室や西日へのカーテンの配慮などがされている。各部屋にトイレがあり、落ち着いて利用できる。リビングの音や、光、室温に気を配り、利用者の作ったものや、季節に応じた花を飾るなど、利用者が心地よく、不安にならない環境をつくるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横の椅子、リビングのソファなど思い思いに過ごされている。廊下を歩かれ疲れられた際には、ソファに座ってくつろいだり、食堂テーブルにて気の合う仲間と談笑したり思い思いに過ごされています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで使っていた生活物品・写真などを持ってきて頂き、少しでも安心して過ごせる、自分の居場所だと思っただけのような空間になるように配慮しています。ベット以外でもリラックスできるイスやソファも置かれ本人の好みに環境を整えておられます。	利用者の部屋には、ソファや写真、時計、絵画、ラジオが置かれており、持ち込むものに制限はなく位牌や仏壇がおかれることもある。今まで利用していた馴染みのものを持ち込むことにより、居心地よく過ごせる工夫が行なわれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に合わせた導線に家具や物品の配置を行い、手すり設置、トイレや自室が判る印や名前を張り出来るだけご本人の力で行動できる環境を作りわかる力を活かしています。歩行不安定で見守りが必要な方は、センサーマットやドアに鈴を使用し危険防止につとめています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない